

藤岡啓介の翻訳玉手箱 第3篇
公開講座 プロになるぞ！！ 番外編 その2
コメント一覧

『日本人の思考と日本語』

宜長の話は『語学と文学の間』(岩波現代文庫)、『日本語について』(同時代ライブラリー)の両書に収められています。

中村元博士の説

『インド人の思惟方法』(春秋社)に収められています。中村元(はじめ)先生は華嚴經、法華經などの仏典をすべて現代語に翻訳されています。専門書から一般教養書まで数多くの著書があります。大野晋、中村元、翻訳者は先生たちの著書を10冊は読んでおかなければ。でも、いくらか分かるには10年はかかりますよ。

冒険のお話

目次は、英語の出発、危機一髪、苦難の時代、試練のなかでの進化、玉座奪還、新生イングランドの文学者チョーサー、神の言葉となった英語、国家の言葉へ.....永遠の作家シェイクスピアの英語、アメリカへの運命の旅.....と続いています。これを見ただけでも「読まなければ」と思うはずです。

「国語」

ほんとうは「日本語の辞典」と言いたいのですが、不思議な事に圧倒的に「国語」になっています。そこで、わざと括弧でくくりました。

『新潮日本語漢字辞典』

新潮社には1965年初版の『新潮国語辞典 現代語・古語』もあります。感動的な辞書でした。(ぼくはつぶつぶしで三冊目を使っています。)

三部作

最近『字訓』『字統』の普及版がだされましたね。『字通』が待たれます。白川先生のお仕事を高い安いというのはきわめて無礼なことですが、個人の懐にはきつかったですね。

【この提案を真剣に考える】

推薦しないときも、その旨お伝えします。手をつけている作品がありますか？ 新刊の著作権フリー本だけが市場ではありませんよ。編集部宛てに「自己紹介」と翻訳する作者(作品)を教えてください。手順を案内します。